

【2020年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

科目名		ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
理学療法演習Ⅲ - 1			必修	1	3	前期
担当教員		研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
粕山 達也 他		D311	kasuyama		月曜日 13:00~14:40	
授業の目的・概要		臨床実習では、様々な疾患に対する理学療法における臨床思考過程を理解することや、取りまとめる力が必要になる。また、実際の医療現場では、他者に考えを伝えるための能力が必須である。そのため、本演習では、模擬症例を用いたペーパーシュミレーション学習を行い、臨床における思考過程を模擬的に経験するとともに、統合と解釈の方法について習熟する。 各課題の内容について、必要に応じて資料を通じて理解し、その後のフィードバックと Teams を利用した意見交換を行い、理解を深める。				
学習上の助言		整形外科および神経内科における疾患についての知識、理学療法評価学および診断学で学んだ評価内容についての知識が必要となる。 画像所見をみて、評価を考える必要があるため、整形外科や神経内科学の講義内容の復習をしておくことが望ましい。				
教科書		指定しない				
参考書		無し				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	対象疾患に関する情報を収集し、意見をまとめて発表することができる。			PT (2)、(4)、(6)		
②	対象疾患の理学療法に関して、課題の発表を通じて質疑応答に対応することができる。			PT (2)、(4)、(6)		
③	各疾患に関する思考過程について整理し、内容について討議することができる。			PT (2)、(4)、(6)		
④						
⑤						
⑥						
授 業 計 画						
回	学習内容等	授業の方法	事前事後学習内容・必要時間 (時間)			
1	オリエンテーション。 第1症例を提示する。(変形性股関節症) [担当:粕山達也]	印刷教材等での学習	変形性股関節症について学習し、科目教員と意見交換を行う。		1	
2	第1症例に関する基本的な情報や必要な評価項目について学習を行う。 [担当:粕山達也]	印刷教材等での学習			1	
3	第1症例の基本的な情報や必要な評価項目について学習および討議を行う。 [担当:粕山達也]	印刷教材等での学習			1	
4	第1症例における評価の思考過程について学習する。 第2症例を提示する。(脳血管障害) [担当:粕山達也]	印刷教材等での学習	脳血管障害について学習し、科目教員と意見交換を行う。		1	
5	第2症例に関する基本的な情報や必要な評価項目について学習を行う。 [担当:粕山達也]	印刷教材等での学習			1	
6	第2症例の基本的な情報や必要な評価項目について学習および討議を行う。 [担当:粕山達也]	印刷教材等での学習	課題に対するフィードバックをもとに修正する。		1	
7	第2症例における評価の思考過程について学習する。 第3症例を提示する。(関節リウマチ) [担当:粕山達也]	印刷教材等での学習			1	
8	第3症例に関する基本的な情報や必要な評価項目について学習を行う。 [担当:粕山達也]	同時双方向型授業	運動器疾患と中枢疾患に関する学習を行い、科目教員と意見交換を行う。		1	
9	第3症例の基本的な情報や必要な評価項目について学習および討議を行う。 [担当:粕山達也]	同時双方向型授業			1	
10	第3症例における評価の思考過程について学習する。 第4症例を提示する。(パーキンソン病) [担当:粕山達也]	同時双方向型授業	課題に対するフィードバックをもとに修正する。		1	
11	第4症例に関する基本的な情報や必要な評価項目について学習を行う。 [担当:粕山達也]	同時双方向型授業			1	
12	第4症例の基本的な情報や必要な評価項目について学習および討議を行う。 [担当:粕山達也]	同時双方向型授業	課題に対するフィードバックをもとに修正する。		1	
13	第4症例における評価の思考過程について学習する。 [担当:粕山達也]	同時双方向型授業			1	
14	第1~4症例の思考過程を整理する。 [担当:粕山達也]	同時双方向型授業	課題の問題点を整理する		1	
15	これまでの学習の総括。 [担当:粕山達也]	同時双方向型授業	配布された資料を読む。		1	
試	定期試験 達成度評価・評価のポイント参照。					

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科/旧カリキュラム】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計	
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他		
		0	100	0	0	0		
総合力指標	知識・技術力	0	50	0	0	0	50	
	思考・推論・創造する力	0	20	0	0	0	20	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	20	0	0	0	20	
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	0	10	
		評価のポイント				フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
レポート	①	✓	症例に対しグループで討議した内容をふまえ、提示された評価結果をもとに「統合と解釈」、「問題点の抽出」や「ゴール設定」について分かりやすくまとめる。				レポートの添削、講評を行う。	
	②							
	③	✓						
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
備 考								
<p>担当教員：◎粕山 達也、三科 貴博、関口 賢人、高木 大輔、池上 諒、遠藤 悠介、駒形 純也、玉木 徹、大塚 篤也、坂本 祐太</p> <p>教員の実務経験：病院、訪問リハビリテーション施設等で理学療法士としての実務経験あり。</p> <p>実践的授業の内容：代表的な疾患に関するペーパーペイシェントを使用して行い、臨床的な理学療法の思考を学習する。</p> <p>課題のフィードバックは、課題の解説を行い、返却する。意見交換については、原則として授業時間内に行うがメールや Teams でも随時対応を行う。</p> <p>Teams を使った同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限の Wifi 環境を推奨する。遠隔授業では、課題のダウンロードや動画視聴などがあるので、通信量に十分に注意すること。</p> <p>今後の感染症の状況など、社会情勢に応じて再度シラバスの変更が生じる可能性がある。</p>								